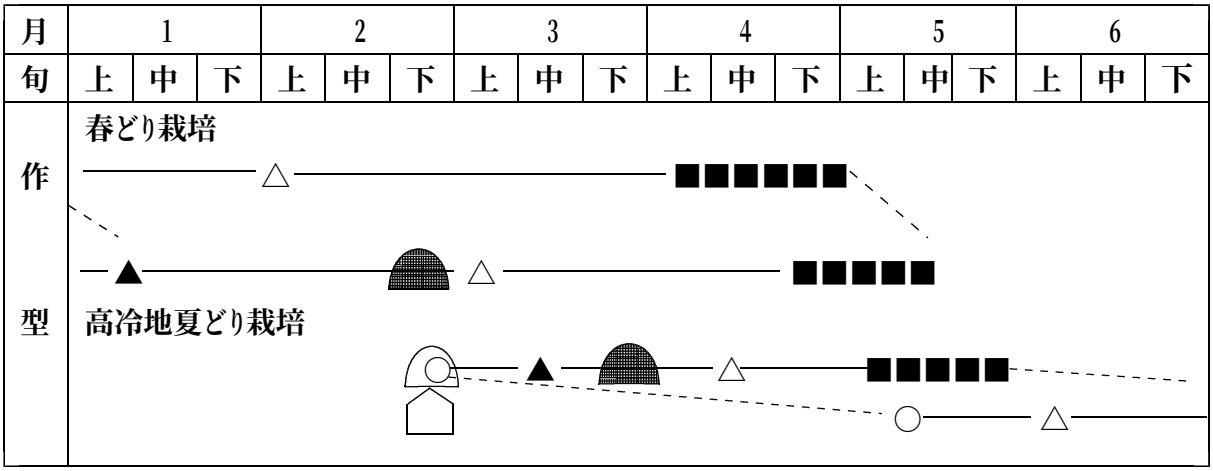
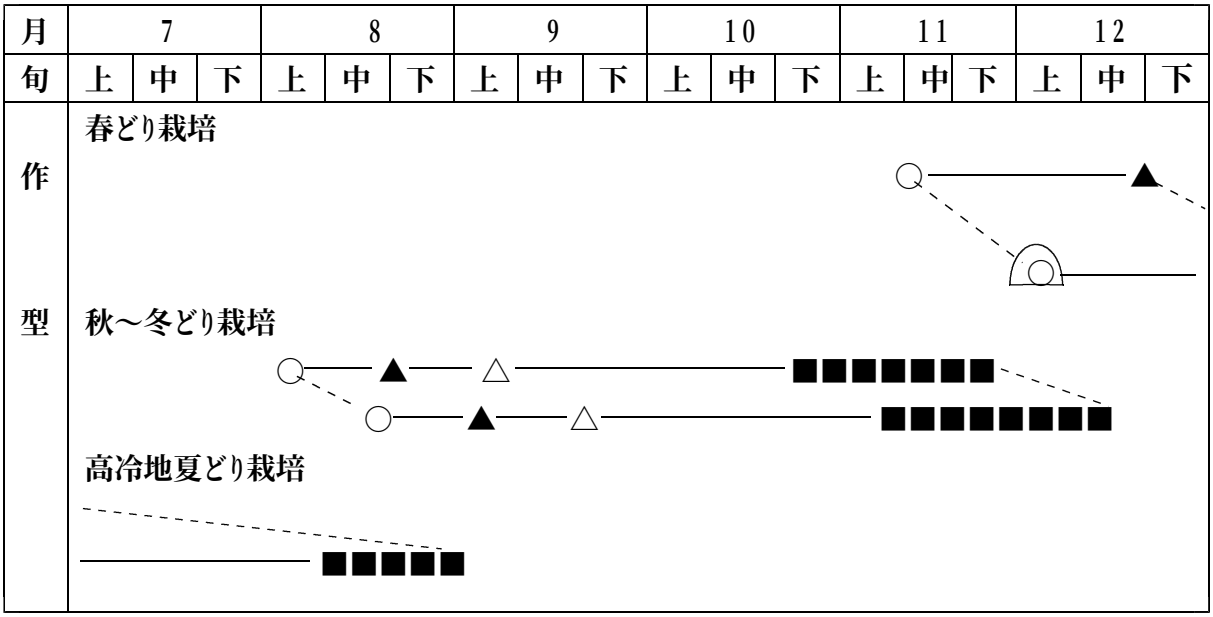
レタス

1　作型





○:播種　▲:仮植　△:定植　■:収穫　:トンネル被覆　:トンネル除去　:ハウス

アピールポイント

- 出荷時期:4月中旬～8月下旬、10月下旬～12月中旬。
- 本県の平坦地から高冷地までの標高差を活かし、また、被覆資材を用いることで、多様な作型による栽培が可能で、長期的な出荷が可能です。
- オーソドックスな結球型をはじめ、結球しないレッドリーフやグリーンリーフなど、品種が豊富で、用途に対応した出荷ができます。
- 産地によっては予冷処理により鮮度保持を行っています。

2　各作型のポイント

(1) 春どり栽培

低温期の球肥大性に優れた品種を選びます。

播種床の地温上昇を促すため、3～4日前までにビニールトンネルを設置しておきます。

発芽後は、日中のトンネル内温度が25℃以上にならないように換気します。

仮植時、定植時とも植え付けの数日前から徐々に寒さに慣らし、苗を強健にしておきます。

生育促進を図るため、定植直後からべた掛け資材を利用します。被覆期間は、その地方の桜の花が満開時までを目安とし、晩霜が予想される場合は、夜だけ被覆するようにします。

(2) 秋～冬どり栽培、高冷地夏どり栽培

高温でも良く成長し、晩抽性で、病害抵抗性のあるものを選びます。

播種後は乾燥を防止するため新聞紙や稲ワラで覆いをし、更に高温を防ぐため寒冷紗で遮光します。発芽後、徒長を防ぐため、直ちに新聞紙などの覆いを取り除きます。

(3) 各作型共通

覆土は、薄く行い、敷きわらをした後、十分に灌水します。

本葉が2.5～3枚時に仮植を行います。

10a当たり8,000株を目標にして植え付けます。定植する苗は、本葉5～6枚を目安とします。あくまで健全な苗を利用することとし、老化苗は利用しないようにします。

レタスの理想苗と徒長苗の草姿

結球期までは、外葉の張りを大きくするため、乾燥しないように適宜灌水します。結球後期から収穫期にかけては、やや控えめの灌水として品質向上に努めるようにします。

鮮度を保持するため、老化球にならないように適期収穫を心がけます。

切り口褐変防止対策として、スプレーで0.5%食塩と0.2%食酢を加えた液を切り口に噴霧します(切り口の変形や白変することがあるので、混合比率は守るようにします。)。